

ご紹介のお願い

米国アカデミー賞公認アジア最大級の国際短編映画祭 ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2019

今年一番観客の支持を得たのは？ オーディエンスアワードと 将来の映画スター：ベストアクター&アクトレスアワードが決定！ 川島海荷さん、本仮屋ユイカさん、別所哲也が参加する SSFF & ASIA 2019 in 阿智（長野県）にて受賞作品を上映！

6月16日（日）に閉幕した、米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭ショートショート フィルムフェスティバル & アジア（SSFF & ASIA）2019のオーディエンスアワードとベストアクター&アクトレスアワードが決定いたしました。

インターナショナル、アジア インターナショナル、ジャパンのオフィシャルコンペティション各部門にて、観客の投票により選ばれたオーディエンスアワードには、ベルギーのコメディ作品『私の惑星／My Planet』、他人同士のある出会いを描いたイランの『A プラス／A+』、日本の作品では実験的アニメーション&モキュメンタリー作品『ある日本の絵描き少年／A Japanese Boy Who Draws』が選ばれました。ベストアクター&アクトレスには、一人芝居で圧巻の演技を見せるアメリカ人俳優や子役ながら25分のドラマを力強くかつ繊細に演じ切る日本人俳優など、近い将来世界的に注目されるであろう実力派の役者たちが選ばれました。各受賞結果は2ページ目をご参照ください。



これらの作品の一部は、SSFF & ASIA 2019グランプリ、ジョージ・ルーカスアワードなど他部門の受賞作品と共に、**7月20日（土）～28日（日）まで長野県阿智村で開催されるSSFF & ASIA2019 in 阿智 - 日本一の星空映画祭 - にていち早く上映されます。**

7月20日（土）、21日（日）に開催されるSSFF & ASIA in 阿智のオープニングセレモニーには、映画祭がこれまでに制作したショートフィルムにも出演いただいている、女優の川島海荷さん、本仮屋ユイカさん、そして映画祭代表の別所哲也が登壇。川島さん主演『幕』、本仮屋さん主演『遠い時間、月の明かり』も上映いたします。イベントの詳細はSSFF & ASIA in 阿智村のウェブサイトをご覧ください。URL: <http://info.sva.jp/shortshorts/>

【インターナショナル部門】



『私の惑星』 (My Planet)

監督：ヴァレリー・カルノア(Valery Carnoy)
24:10/ベルギー/コメディ/2018

50代のパン職人は自分を拒絶する妻に悩んでいた。ある朝、若い現代写真家に出会い、彼の大きな体型が気に入られる。

＜受賞監督からのコメント＞

僕の感性が日本人の観客に受け入れられたということは僕にとってとても大切です。オーディエンスアワードは既に故郷ベルギーと活動拠点としているフランスで受賞しましたが、それとは別に、日本で受賞するという事は、日本映画や漫画をたくさん吸収してきた僕にとって特別な受賞になりました。もしかすると、僕は大好きなクリエイティブな日本文化を思っていたより知っていたのかも知れないですね。

【アジア インターナショナル部門】



『A プラス』 (A+)

監督：ベーラング・ミルザイ(Behrang Mirzayi)
15:30/イラン/ドラマ/2018

腕に抱える赤ん坊と買い物袋に手が足りない女性が、通りすがりの男の子に手伝って欲しいと声をかける。しかしそれはただの序章にすぎなかった。赤の他人同士の人生が交わる様子を描いた作品。

＜受賞監督からのコメント＞

すごく嬉しいです。この作品を観て投票してくれたすべての人に感謝します。今回映画祭に行けずとても残念です。この作品の脚本を書いていた時、物語が持つ独特な文化的表現が世界のオーディエンスに不向きなのではないか、と不安でした。しかし今回オーディエンスアワードを受賞したことでこの不安は間違っていたと再確認できました。今回この作品でSSFF に参加できたことをとても誇りに思います。次回作でまた参加できるよう頑張ります。

【ジャパン部門】



『ある日本の絵描き少年』

(A Japanese Boy Who Draws)
監督：川尻将由 (Masanao Kawajiri)
20:32/日本/アニメーション/2018

ある漫画家を目指す男の半生を、絵柄の成長と共にヴィジュアルを変えて語る、実験的アニメーション&モキュメンタリー作品。

＜受賞監督からのコメント＞

日本人にしかわからないネタが多いかなと思っておりましたが、上映を見に行った時、海外の観客の方にも笑いがおこっており非常にホッとしました。とにかく多くの方に届いて嬉しいです。

【インターナショナル部門：ベストアクター】



『頑固者』(Naysayer)

監督：デビッド・ヘルマン (David Helman) /8:32/アメリカ/ドラマ/2018

まだ赤ん坊の息子から引き離された若い父親。息子の母親である元恋人が彼をSNSからブロックしていたことに気付いた時、父親は息子連れ去ることにした。

受賞者：スティーブン・ユアン (Steven Yeun)

受賞理由：一人芝居ながら圧倒的な存在感を放つ。スティーブンが表現する不安や怒りの感情が作品全体の緊張感をうまく作り上げていた。

【インターナショナル部門：ベストアクトレス】



『向かいの窓』(The Neighbors' Window)

監督：マーシャル・カーリー (Marshall Curry) /20:39/アメリカ/ドラマ/2019

幼い我が子と夫の面倒に愛想が尽きたアリーは近所に引っ越してきた20代のカップルの部屋が自宅の窓から見えることに気付く。そこからカップルの自由なライフスタイルを「裏窓」風に覗き見る日常が始まった。

受賞コメント：このような名誉ある賞をいただきありがとうございます。何よりも、映画の祝典を継続し、映画を表彰する場を設けていただいたSSFF & ASIA に感謝申し上げます。素晴らしいチーム

受賞者：マリア・ディッツァ (Maria Dizzia)

受賞理由：母として、妻として、女としての佇まいや感情をリアルに演じ、観客の感動を誘った。

全体の先頭に立ち、物語作りを促した監督には大変感謝しています。チームを引っ張ったリーダーシップとチームを信頼してくれてありがとう、大好きなコラボレーションの一つになりました。既に3回目の共演になった俳優のグレッグ・ケラーにも感謝したいです。私のお気に入りのうちの夫です！本作の撮影はとても意味のあるものになりました。過去数年の間に2人のメンターを失い、その1人がマーシャルと共通の知り合いだったロバート・プライダムでした。そのためマーシャルとこの作品を作れたことは、私にとってとても光栄で、2人が大好きなメンターも喜んでくれたと思います。プライダム氏のお気に入りの作品の一つが『イヴの総て』で、このコメントのまとめとして彼がよく映画から取って使っていたセリフで締めくくりたいと思います：「これからの役者人生が愛にあふれますように」

【アジア インターナショナル部門：ベストアクター】



『屋上のマジシャン』(Magician on the roof)

監督：ジャオ・ユイ・マー (Xiao-Hui Ma) /25:00/台湾/ドラマ/2018

人の家に強盗に入った男、逃げる道中でレイプ現場に遭遇する。目の前の現状になにもしないことを選んだが、時間が経つにつれて徐々に罪悪感に悩まされ始める。そんな時、外国人介護士の女性—あの夜の子と再会する。

受賞者：ジェンシュオ・チェン(Jen-Shuo Cheng)

受賞理由：不器用で心優しい男を魅力的に演じた。その自然な演技によりキャラクターが持つ罪悪感、切なさ、愛情が観る者の心に深く残る。

受賞コメント：名誉ある賞をいただきありがとうございます。『屋上のマジシャン』という素晴らしいショートフィルムで台湾出身の俳優として、日本で受賞できたことに感激しています。監督、役者、そしてスタッフのみなさんの愛と協力に感謝を述べたいです。この賞を通してこの作品がもっとたくさんの方々に観ていただけること、そしてたくさんの監督からお声掛けいただけることを願っています。ありがとうございました！

【アジア インターナショナル部門：ベストアクトレス】



『無風になびく髪』(Dying wind in her hair)

監督：シャジア・イカバル (Shazia Iqbal) /20:35/インド/ドラマ
/2018

経済的な理由で奨学金を得ようと面接を受けるファティン。彼女はその面接で宗教という権威に押しつぶされそうになる。

受賞者：サラ・ハシュミ (Sarah Hashmi)

受賞理由：周りから求められるものと自分が求めるものの折り合いがつかない悔しさや葛藤を台詞だけでなく間や表情で見事に表現していた。

受賞コメント：映画祭の皆さん、ありがとうございます。この作品を通して私を評価いただき、アジア インターナショナル部門ベストアクトレスアワードが受賞できとても光栄です。

私にとってこの賞は私とこのキャラクターとの旅路と、宗教によって人生を左右されている世の中の女の子たちを 賛称しています。してよいこととしてはいけないことの境界線さえなければ、宗教は容易に信仰できます。そのため、自分自身を信奉し独自のルールを貫くことがとても困難になります。本作を通して観客の皆様にも、「物」として捉えられている女性たちに何か疑問を持ってもらいたいと願っています。

本作は私にとってとても特別な作品です。作品を作る過程でたくさんの困難がありましたが、それ以上に現在世間で疑問視されている世界中のムスリムと国家を映し出す特別な経験ができました。この作品は「選択」という観点を打ち砕き、世界中の誰もが自由に暮らすべき平等な社会を物語っています。これからもこの作品のように様々な社会問題に目を向けた作品に携わりたいと考えています。この賞は制圧的な宗教観念に向かって戦うすべての女性たちに捧げ、彼女たちの苦労に敬意を表します。

【ジャパン部門：ベストアクター】



『僕だけは知っている』(No one but I know)

監督：上條大輔 (Daisuke Kamijo)/24:59/日本/ドラマ
/2019

14歳の少年、天翔(たかと)は父親の暴力から母を守ろうと誓う。ある日彼が目覚めると、父親が目の前で死んでいた。容疑をかけられた母親の身の潔白を示すため、天翔は一人奔走するが。。

受賞者：野上天翔 (Takato Nogami)

受賞理由：子役ながら25分間を独占。難しい役どころを力強くかつ繊細に演じており、今後の活躍が期待できる俳優。

受賞コメント：とても光栄です。本当にありがとうございます！この作品で自分に今までになかった「自分が壊れる」という感情を出すことを初めて体験し、

とても難しかったのですが、印象深い作品になりました。僕だけが知っていること、僕だけが知らなかったこと、そこに気づいて自分の無力さを嘆くそんな作品になっています。本作品は上條大輔監督、撮影に関わった皆様、そして僕の努力の結晶です。是非、たくさんの方に観ていただきたいです。

【ジャパン部門：ベストアクトレス】



『ヒゲとレインコート』(Beard and Raincoat)

監督：八幡貴美 (Kimi Yawata)/11:53/ 日本/ドラマ/2018

どこにでもいる普通の女子高生カナコはある日偶然にも彼氏の兄のヒゲに触れ、そのジョリジョリとした触感が忘れられなくなってしまう。しかしそのヒゲの兄もまた別のフェチを持っていた。

受賞者：芋生悠 (Haruka Imou)

受賞理由：ヒゲフェチに目覚めてしまった女子高生を、あどけなさや色気を同居させながらもあくまで自然体で演じていた。

受賞コメント：素敵な賞をありがとうございます。驚きと喜びで胸がいっぱいです。

初めて台本を読んだ時に、フェチズムをここまで本気で描いたらどうなるだろうとワクワクしたのを覚えています。八幡監督やスタッフの皆様、共演者の皆様のおかげでカナコが存在が色濃くなったと思います。感謝が尽きません。これからこの賞の名に恥じぬ女優になれるよう邁進します。人との出会いを大事にして、映画に恩返しをしていきます。これからもわたしとヒゲとレインコートをよろしくお祈りします。



開催名	ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2019 in 阿智 -日本一の星空映画祭- (SSFF & ASIA 2019 in ACHI -日本一の星空映画祭-)
開催日程	2019年7月20日（土）～7月28日（日） 9日間
開催時間	会場によって上映時間が異なります
開催場所	①天空の楽園日本一の星空ナイトツアー会場 富士見台高原ロープウェイヘブンスそのはら 〒395-0304 長野県下伊那郡阿智村智里3731-4 ②日本一の星空浪合パーク会場 〒395-0501 長野県下伊那郡阿智村浪合1192-356
料金	会場によって料金が異なります
主催	スタービレッジ阿智誘客促進協議会
企画・統括	ショートショート実行委員会
お問合せ	阿智☆昼神観光局 0265-43-3001
WEBサイト	http://info.sva.jp/shortshorts/

★画像は下記URLよりダウンロードいただけます。

https://drive.google.com/drive/folders/1OTH8QSDBJ12i0CPe0En04Y9MCK0SV_P-?usp=sharing